第２分科会

亀山市文化会館



第２分科会

会 場　亀山市文化会館

発表テーマと発表PTA

◆家庭教育力の強化を図ろう　～子どもたちの健やかな成長を支えよう～

／愛知県豊川市立御油小学校PTA

◆ふれあいを通して人と人がつながり、学びにあふれるPTAをめざして
～地域と協創する活動実践～

／三重県亀山市立川崎小学校PTA

助　言　者

●亀山市教育委員会　教育推進課長　課長　　谷　　伸

講　　演

◆大人が正解を手放したとき、子どもは考え始める
～失敗を恐れない子を育てる声かけと関わり～

講 演 講 師

●スコーレ倭　代表　　湯浅　秀紀

家庭教育力の強化を図ろう
～ 子どもたちの健やかな成長を支えよう ～

愛知県豊川市立御油小学校ＰＴＡ
会　長　　石　黒　友　巳

１　はじめに

(1) 地域と学区の概要

豊川市は愛知県南東部に位置し、北側には県立自然公園に指定されている本宮山山麓が連なり、中央部から広がる平野の東部には一級河川豊川（とよがわ）の清流が流れ、そして南部では波穏やかな三河湾を望むことができ、「山、川、海」といった豊かな自然環境に恵まれています。古くは三河の国府が置かれ、この地方の政治・経済の中心として栄えてきました。近世以降は、東海道宿場町、豊川稲荷の門前町として多くの人に親しまれるまちでした。昭和 20 年には、東洋一といわれた豊川海軍工廠を中心とした地域が B-29 爆撃機の空襲にあい、2,500 人を超える尊い命が奪われ、まちが壊滅状態になるという悲惨な体験をしました。戦後、東名高速道路豊川インターチェンジの開設を機に、復興の道を歩み始めるとともに、豊川用水の通水に伴い、農業が盛んになり、スプレー菊、バラや大葉の栽培を中心とした施設園芸が発展しました。人口は 18 万５千人で東三河の拠点都市となっています。

御油地区は、豊川市西部にある、かつての東海道の宿場町にあります。特に、御油宿と隣接する赤坂宿へと続く「御油のマツ並木」は、国の天然記念物に指定されており、江戸時代の面影を残す風情ある場所として知られています。

(2) 本校の概要

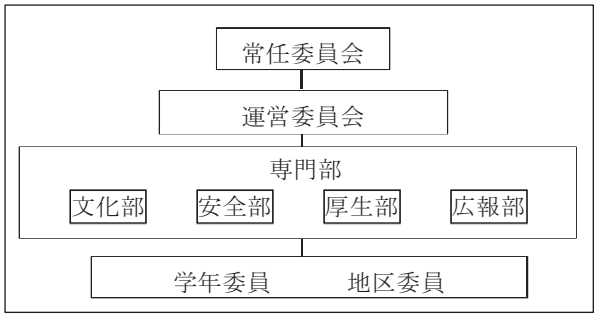
本校は、明治６年に第二大学区第四十五番御油小学校として設立され、令和５年には創立 150 周年を迎えた歴史ある学校です。昭和 34 年の豊川市への合併以降も、一町で構成される校区の特性を活かし、地域と密接に関わりながら歩んできました。開校当時は、児童数 108 人の学校でしたが、現在は全校児童数 478 名、特別支援学級７学級を含む 22 学級で構成されています。

本校の特色ある教育の一つが、生活科や総合的な学習の時間で６年間継続して行うマツ並木の学習です。地域の人々によって大切にされてきたマツ並木の保存には、本校の子どもたちも一役を買っています。５年生では、愛護会の方々に教えていただきマツの種まきを行います。６年生では卒業記念として、植樹もします。自分たちの手で植えた苗が、その瞬間から国の天然記念物となる、という体験は、郷土への深い愛着と誇りを育む貴重な機会となっています。



【松の植樹】

(3) ＰＴＡ組織について



本校のＰＴＡは、常任委員 11 名〔三役、書記・会計２名・部長４名（内１名は書記と兼任）・校長教頭〕と、運営委員（学年委員、地区委員）、一般会員で構成されています。

地区委員は校区内の各地区から、学年委員は各学年から選出されています。今年度は、合計 33 名（内３名は書記・会計と兼ねる）の方が参加しています。専門部は、文化部、安全部、厚生部、広報部の４つあり、各運営委員が一つの部に所属し、教育活動を支える活動を担っています。文化部は、主に給食試食会を計画、実施しています。安全部は、登校時の見守りを行っています。厚生部は、親子クリーン作戦を計画、実施しています。広報部はＰＴＡ新聞の編集、発行をしています。

御油小学校では、ＰＴＡ活動を通し、地域の大人たちが協力して、「子ども一人一人の成長に関心をもち、支え合おう」という思いを共有することで、家庭の教育力の向上をめざしています。

２　活動紹介

【御油小学校ＰＴＡ年間活動計画】

４月　ＰＴＡ総会（書面議決）、
　　新旧常任委員会、運営委員会
５月　運営委員会（書面）、救急救命講習会
６月　スマホ・ＳＮＳ安全教室
７月　三役選挙、ＰＴＡ新聞発行
８月　資源回収（コンテナ設置）
９月　親子クリーン活動
10 月　給食試食会、常任委員会、運営委員会
11 月　地区委員決め
１月　資源回収（コンテナ設置）、総括
２月　学年委員決め、来年度組織作り
３月　桜の植樹、会計監査

＊登校時の見守り活動は、毎月行う

本校では、保護者が参加できるＰＴＡ活動の充実を図り、積極的に学校と家庭が関わることで、より強い家庭教育力を育てる一助となると考え、学校の年間行事予定の中に保護者参加の行事を計画的に配置し、活動しています。以前は、ベルマーク回収や資源回収等の活動をＰＴＡで担っていましたが、コロナ禍以降、役員の負担を減らし、活動に参加しやすくするために活動を精選しました。

(1) 登校時の見守り立ち番

御油小学校は、町内の 10 地区から児童が通っています。それぞれの地区には１～３人の地区委員がおり、各地区１人が安全部に所属することになっています。登校時には主に安全部で月１回程度、地区の危険箇所に立ちます。地域の見守り隊や交通指導員の方々と共に子どもたちが安心して登校できる環境を作っています。



【登校時の見守り活動】

(2) スマホ・ＳＮＳ安全教室

４、５、６年生を対象に、情報モラルについて適切な知識を身につけ、スマホやＳＮＳの便利さと危険性、スマホやＳＮＳを使用する際に気をつけることなど、トラブル防止を目的としたスマホ・ＳＮＳ教室を実施しました。保護者にはビデオオンデマンドで大人向け講座を配信し、家庭視聴していただいたり、子どもが学校で学んだことを家庭で話題にしたりすることで、家庭でのルール作りの一助としていただけたのではないかと考えています。

(3) 救急救命講習会

水泳授業が始まる前に、消防署の方を講師に招いて実施しています。６年生の保護者と職員が、授業や夏休みのプール当番を務めるための備えとして、人形を使って心肺蘇生やＡＥＤの取扱い方を実践的に学びます。もしもの時に動けるという安心感が、学校活動への主体的な関わりを支えています。



【救急救命講習会】

(4) 親子クリーン活動

本校では、毎年９月の第３土曜日を授業参観日とし、授業参観後に通学団ごとに分かれて親子で環境整備に取り組んでいます。



【親子クリーン活動】

夏の間に大きく成長した草を取るのは、普段の子どもたちの清掃活動だけでは時間も人手も足りないところを、多くの保護者が参加してくださることで、短時間でもごみ袋 250 袋ほどの量の草を取ることができ、学校がきれいになりました。親子で一緒に活動することで、子どもたちにとっては、自分の学校を大切にする心を育む貴重な時間となり、保護者にとっては、子どもたちの学校での様子を知るよい機会となっています。また、親子だけでなく、地域の皆さんや職員ともコミュニケーションを図るよい機会となりました。

(5) 給食試食会

文化部が中心となって企画・運営し、１年生の保護者を対象として毎年 10 月に行っています。保護者にとっては、子どもたちの学校での食事の様子を見ることができるチャンスとなっているため、毎年たくさんの保護者の方に参加していただいています。令和７年度は 43 名の保護者の方が参加されました。普段、子どもたちが食べている給食を体験するとともに、給食の様子を見学したり、栄養教諭の話を聞いたりして、学校給食についての理解を深めています。



【給食試食会】

栄養教諭から、安全でおいしい給食を作る工夫や、栄養バランスについて話を聞いた後、子どもたちと同じように当番活動をし、給食をいただきました。この日のメニューは、「マーボー豆腐、ギョウザ、添え野菜、牛乳」でした。マーボー豆腐は子どもにも大人にも大人気で、豊川市の学校給食で人気ナンバー３のメニューです。食事中に栄養教諭から、「隠し味には味噌を使っているんですよ」という秘訣が明かされました。「おうちにあるもので味付けができますよ」というアドバイスは、親子の食卓を豊かにするヒントとなりました。楽しい雰囲気の中でいただいた給食は、ほぼ完食でした。食べ終わった後の片付けも子どもた

ちと同じように行い、給食の一連の流れを体験できました。

参加された保護者からは、「懐かしい給食の味を久しぶりに食べられてうれしかった」「子どもの頃に戻ったようで、とても楽しかった」といったうれしい声がたくさん聞かれました。

(6) 桜の植樹

本校と同じ中学校区には、もう１校小学校があります。その２校の６年生が御油小学校区にある東三河ふるさと公園に桜の苗木を植樹しました。この企画は両校のＰＴＡ会長を中心に、「子どもたちが中学校で出会う前に、少しでも交流できる機会を」という温かい発案から生まれました。数回の話し合いを経て、二つの小学校合同で桜の植樹を行うこととなりました。



【桜の植樹】

東三河ふるさと公園は、東三河の風景をテーマとした緑豊かな公園です。山の自然をそのまま生かした広い敷地には、四季折々の花が咲いています。ふるさと公園は、本校の校区にありますが、山はもう１校の校区まで続いています。その公園の一角に許可をいただいて植樹することとなりました。これから毎年植樹を行っていき、将来的には両校の校区を桜でつなげたいという壮大な願いも、この植樹活動には込められています。

当日は自由参加という形でしたが、たくさんの子どもたちと保護者の方が集まってくださいました。親子で言葉を交わしながら、穴を掘ったり土をかけたり、また子どもたちは小学校卒業後に同じ中学校へ通う仲間として作業に励む姿が見られ、卒業を前に学校の枠を超えた温かな思い出を作ることができた時間となりました。

３　成果と課題

(1) 成果

保護者がＰＴＡ活動に積極的にかかわり、学校行事を支えていることで、子どもたちをみんなで育てていこうとする空気を生み出しています。子どもたちが、「自分は大切にされている」「地域に見守られている」と感じられる環境を作ることが、子どもたちの健やかな成長を支える強固な土台となっています。

(2) 課題

コロナ禍以降、ＰＴＡ活動の在り方が見直され、ベルマーク回収の精選や会議の効率化を進めるなど、活動自体がなくなってしまったり規模を小さくして行われたりしています。ＰＴＡ活動が保護者にとって「負担感を強いる存在」になるのではなく、「子どもたちのためにどんなことができそうかと考える場」へと進化し続けることは今後も必要であると考えています。活動の見直しを進める一方で、保護者と学校、地域が対面で交流し、思いを共有する機会は以前にも増して貴重になっています。保護者と学校、地域がつながって、「みんなで子どもたちを育て、子どもたちの健やかな成長を支えていこう」という思いをどのように継承していくかが大きな課題です。今後も変化する社会情勢に合わせつつ、保護者・学校・地域の三者が手を取り合い、子どもたちを育んでいくことができるＰＴＡ活動となるよう、充実した活動に取り組んでいきたいと思っています。

ふれあいを通して人と人がつながり、学びにあふれるＰＴＡをめざして
～ 地域と協創する活動実践 ～

三重県亀山市立川崎小学校ＰＴＡ
会　長　　町　野　　望

１　はじめに
(1) 校区・本校の概要

三重県亀山市に位置する本校は周辺に茶畑や田園が広がり、また、日本神話の英雄ヤマトタケルノミコトの御陵「能褒野神社」や、県史跡「峯城址」などが残る歴史的な地にあります。一方で、近隣には多くの企業が進出し、工業と農業が調和した活気あふれる地域です。

児童数４５０人、全１８学級（特別支援学級含む）の中規模校として、全国的な少子化に反し児童数は増加傾向にあり子ども達の明るい声が響いています。

令和７年度は、創立１５０周年という大きな節目を迎えました。「ふれあいを通して人と人がつながり、学びにあふれるＰＴＡ」を目指してＰＴＡがどのように学校・地域と連携してきたか、その取組を報告します。

(2) 「共助」を根幹とした組織運営

本校ＰＴＡは「ボランティアであり、できる時に、できる人がする」というスタンスを活動の根幹に据えています。現在の本部役員は全員立候補であり、高い意欲が活動の原動力となっています。

組織は会長、副会長、書記、会計、顧問に加え、体育厚生部、教養広報部、環境事業部の３専門部で構成されています。原則２年任期制を採用し、１年目の部長経験者が翌年に会長・副会長・顧問へ昇り本部役員として留任することで、前年度の課題や改善したい点をダイレクトに次年度へ活かせる仕組みと、新任役員がいつでも安心して相談できる環境を確保しています。

(3) 柔軟な参画システム

私たち本部役員が最も留意しなければいけないことは、ＰＴＡ活動のために自分の家庭や子どもを犠牲にする「本末転倒」な事態です。役員の業務のために我が子に我慢を強いては、活動の本質から逸脱してしまいます。

そのため、役員の選出は、単に必要な人数だけ配置するのではなく、個人の専門性や家庭状況を最優先する「柔軟な参画システム」を運用しています。役員の中には９年間にわたり専門性を発揮する部長もあるなど、事情に応じた役割調整を行っています。さらには任期終了後に善意で顧問として引き続き本部組織に携わる役員もおり、精神的サポート体制が構築されています。保護者が楽しく活動に関わることが、結果として子どもたちの笑顔と「学びにあふれるＰＴＡ」の実現に繋がると考えています。

２　ＰＴＡと地域が協創する活動実践
(1) 想いを繋ぐクリアファイル

こうした「あたたかみのある組織」であるからこそ、創立１５０周年という大きな節目に、私たちは「形に残る、想いの繋がる記念品」を作り上げることが出来ました。

きっかけは卒業生でもあるＰＴＡ役員の「子どもの頃（３０年前の１２０周年当時）

にもらったクリアファイルを今も大切に持っている」という一言でした。自宅から探し出し見せてくれた当時のファイルは、単なる文房具ではなく、当時の大人たちが子どもたちに向けてくれた愛情の証だと感じました。「今の子どもたちにも、１５０周年という記念の年に在籍しているという幸運や、今回のように未来で感動を味わって欲しい」。この想いから、１５０周年記念クリアファイルの制作が決定しました。

クリアファイルにはもちろん子どもたちの写真を載せました。学校の全面協力を得て貴重な授業時間の中で校庭に「１５０」の人文字になるよう子どもたちと先生に並んでもらいました。

ＰＴＡ役員はドローンの免許を持つ地域の方に撮影を依頼し、撮っていただいた写真と広報部が撮影した全校児童の集合写真をクリアファイルのデザインとしました。

このファイルは単なる記念品の配布にとどまらず、子どもたちは自分たちの写真が載ったファイルを喜び、保護者はその姿を温かく見守り、わが子が歴史の節目に立ち会っている喜びを親子で分かち合う。そんな家庭での会話が、学校への愛着を育み、次世代へ想いを繋いでいくＰＴＡ活動を具現化したものとなりました。

(2) 地域とつくる日常の安全

過去と未来を繋ぐ一方で、私たちは地域と共に歩む「今」の活動にも力を注いでいます。

ＰＴＡと地域の真の連携は、毎日の登下校の見守り活動に象徴されます。各自治会の方々が、悪天候の日も毎日通学路に立ち、善意で子どもたちの安全を見守り続けてくださっています。

本校では保護者である地区委員、各自治会長、学校、ＰＴＡ役員が集う「子どもの安全を守る連絡会」を年２回開催しています。ここでは各地区での子どもたちの様子や防犯・交通事故防止について直接意見交換を行います。この「顔が見える」情報共有の場があるからこそ、ＰＴＡと地域が一体となって子どもたちの命を守る体制がつくられ、維持されているといえます。

(3) 地域総出でつくり上げるイベント

地域との信頼関係は、イベント時にも大きな力を発揮します。その象徴的なイベントが、毎年１１月に小学校を会場として開催される本校の恒例行事「川崎ふれあいフェスタ」です。これは学校運営協議会が主催し、まちづくり協議会や自治会連合会が共催するという、まさに地域総出で作り上げる一大イベントです。

１５０周年という記念の年となった昨年度は卒業生である一見三重県知事をお招きし、「ようこそ先輩」と題した特別授業を併催して、例年以上の盛り上がりを見せました。ＰＴＡはこのフェスタにおいて、「子どもたちが楽しく参加するにはどうすればよいか」を考え、学校と地域、そして保護者を結び付ける実働部隊としての役割を担いました。

ア 課題を共助で乗り越えたカレー

この行事で、毎年恒例となっているのがＰＴＡのカレー販売。しかし昨今の物価高騰は深刻で、例年通りの価格維持は困難を極めました。しかし、決められた金額を持ってフェスタに参加する子どもたちのため値段を上げることはできません。そこで私たちは学校や学校運営協議会を通じて地域に窮状を訴えました。 すると、保護者や地元の農家さんからお米や野菜が届き、精肉店さんからは良質な肉を安価でご提供いただくなど、多大な支援をいただきました。この「地域の協力で作りあげたカレー」は、子どもたちに地域の愛情を味覚として伝え

る食育の場ともなりました。



イ　地域企業と子どもをつなぐ

「川崎ふれあいフェスタ」では、ＰＴＡとしてカレー販売の他に、ろうそく・線香を製造販売する地元企業へ協力を依頼し、「ろうそく絵付け・におい袋作り」の体験ブースも展開しました。この体験ブースは、地域に住むろうそく職人のプロの技術に触れる貴重な機会として、子どもたちに絶大な人気を誇っています。ＰＴＡは、学校の協力を得ながら地域企業と子どもたちを繋ぐコーディネーターとしての役割を持ちました。



(4) 困難な時代と革新

地域総出で作り上げる「川崎ふれあいフェスタ」を大切に守り続ける一方で、私たちは時代の困難に合わせたＰＴＡ活動も模索してきました。その象徴が、今年で６年目を迎える「逃走中（鬼ごっこ）」です。

この活動のきっかけは、数年前のコロナ禍でした。当時、地域総出で作り上げる「川崎ふれあいフェスタ」は、感染拡大防止のため中止を余儀なくされました。運動会や修学旅行も制限され、子どもたちの楽しみが次々と失われていくなか、「このままでは小学校の思い出が作れないまま、６年生が卒業してしまう。違う形で何か思い出作りができないか。」そんな役員たちの切実な想いから、制限ばかりの時期に、校内だけで完結できるイベントとして企画されたのが、テレビ番組を模したこの「逃走中」でした。

「子どもたちの笑顔を絶やしたくない」という一心で、６年生の保護者や先生も参加し大人が鬼役となって子どもたちと一緒に校庭を全力で駆け回り、役員が考えたミッションを子どもたちがこなしながら楽しい時間を過ごしました。今では、子どもたちの意見を取り入れながら「逃走中」はさらに改良され、本校の新しい名物行事として続いています。



伝統である大きな行事が出来ないときでも、「今子どもたちのために出来ること」を必死に考えて実現させる、その想いと行動力が伝統と革新の両方を大切にするＰＴＡの姿勢として引き継がれています。

３　成果・実績

こうした活動の熱量を、ＰＴＡは「伝える」ことで支えました。本校広報部の強み

と言える「子どもたちの輪に入って取材する」。これにより笑顔や真剣に取り組む姿勢など日々成長する子どもたちの自然な様子を記録することができています。一連の活動を丁寧に取材し、編集した広報紙は、令和８年度県Ｐ連の広報紙コンクールにて高い評価をいただき、受賞に至りました。



自分たちの活動が客観的に評価され、モチベーションが向上することで、今後地域からの協力体制もさらに強固になるという、好循環がうまれるのではないかと期待しています。これは前述した「無理のない、やりがいを重視する組織運営」が間違っていなかったこと、学校や地域の協力により子どもたちがのびのびと活動出来ていることの証明でもあると考えます。

４　おわりに

１５０周年という節目は、私たちに「ＰＴＡはだれのためのものか」を再確認させてくれました。伝統という言葉は、時に組織の形骸化や私物化を生む危うさもあります。しかし、学校・保護者・地域の方々の「子どもらのためなら」という純粋な想いに触れるとき、私たちが立ち返るべき原点は、常に子どもたちの笑顔であると確信します。 子どもたちの笑顔のために、多方面からの意見を聞かせてもらえる体制が大切であると考えています。

１５１年目のバトンを受け継ぎ、組織の風通しを良くし、保護者が「気軽に意見を言える」環境を整えていくこと。また、「子どもらのためなら」と協力してくださる地域からの助けは惜しまず受けとめ、学校、地域への感謝を忘れず、「みんなで創るＰＴＡ」を目指します。１５０年の歴史を誇りに、しかし過去の慣習に縛られることなく、令和の時代にふさわしい「人と人がつながり、学びあふれる」組織を力強く進めてまいります。

